

## 第6学年 図画工作科学習指導案

2組22人(男子11, 女子11)  
指導者 平島勝彦

### 1 題材 心を動かされた場面(絵や立体で表す)

#### 2 題材について

##### (1) 題材の価値

本題材は、物語を読んで心を動かされた場面について思いをふくらまし、心に残った場面の感じがよく表れるように線描や画面構成、彩色の工夫をしながら絵に表す学習である。

本学級の子どもたちは、自分の思いを伝えるために構想を練ったり表し方を工夫したりすることへの意欲が高まり、一人一人の表現の特性や傾向を強めてきている。また、これまでの学習で、自分が気に入った風景を選んで絵にしたり、表現する主題を掘り下げたり、効果的な画面構成について考えたりして、主題の情意的な側面をとらえて絵で表す関心を高めている。

そこで、このような子どもたちの意欲の高まりやこれまでの経験を基に、物語を読んで心を動かされた場面を思いのままに絵で表す学習をすることで、自分の思い描いた想像の世界を生き生きと表現する喜びを味わうことができると考える。本題材で取り扱う物語「百羽のツル」(花田大学:作)は、百羽のツルの群れが月夜の夜空を団結して渡る物語(Ⅰツルの飛来Ⅱ子ツルの落下Ⅲツルの曲芸Ⅳツルの飛行)で、力尽きた子ツルを他の九十九羽が一斉に救出するドラマティックな場面を中心として、大きな事を成し遂げる際の協力や愛情といったテーマが描かれており、表現の主題をとらえやすい物語である。また、大山脈や大森林の上空を舞うツルの群れを描く際に遠近や動きなどの画面構成の効果を考えたり、月夜に浮かぶツルを描く際に明度や彩度などの彩色の効果を考えたりしやすい物語である。

子どもたちは、表現の主題に迫る学習を通して、その場面の雰囲気や登場人物の気持ちを表すための線描や画面構成を工夫することができる。また、材料や用具の特性を生かした筆勢や水加減、混色や重色などの彩色の技能を身に付けることもできる。さらに、その際、表現の主題を効果的に表すために、言葉を手がかりにしたり、造形的な要素をとらえたり、簡単な絵に表して試したりするなどの思いをふくらます「学び方」をとらえることができ、互いの作品や表現の仕方を振り返ることで表現の意図や工夫をとらえ、自分の表現に生かすことのできるよさを感じることができる。このような学習を進めることで、表現活動全般で自分らしい考えで表現していく態度を身に付けることができると考える。

##### (2) 子どもの実態

本題材に関する学級の実態は以下のとおりである。[調査人数22人( )は人数重複回答あり]

#### ① 物語を絵にするのは好きですか。それは、なぜですか。

好き(22)

- ・自分で想像した場面を自由に描けるから(18)
- ・想像がふくらむ(高まる)から(4)
- ・面白い、楽しいから(4)
- ・好きな物語を描くのが楽しいから(2)
- ・物語の続きの想像も描けるから(1)

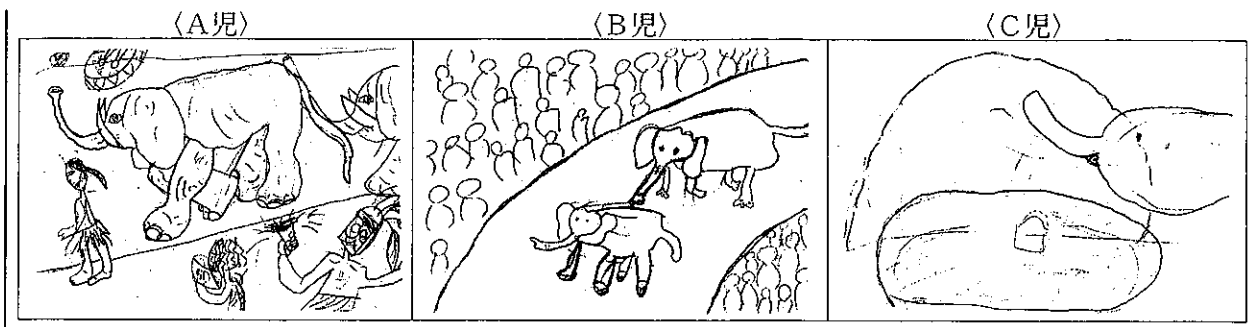
#### ② 画面構成や彩色をしやすくするためには、どんな方法を取り入れますか。

- ・連想する。(15)
- ・簡単な絵にする。(9)
- ・実物の形や動きを見たり、クロッキーしたりする。(6)
- ・資料を参考にする。(4)

#### ③ 絵を描く時どんなことで困ることがありますか。

- ・人物をうまく描けない。(19)
- ・うまく立体的に描けない。(18)
- ・画面構成が決まらない。(13)
- ・自分の思う色がつくれない。(10)
- ・ものどもの重なりがうまく描けない。(2)
- ・やり直しがきかない。(6)

#### ④ 物語「象の行進」(小寺紀一郎:作)を読んで絵にしてみよう。



本学級の子どもたちは、これまでの絵を描く学習を通して描画への関心が高まり、客観的な見方・考え方を身に付けながら、対象を写実的に表現しようとする意欲を高めてきている。物語の絵を描くことが大好きで、自分の思いをふくらますことを楽しんでいる。(①) また、自分の思いを具体化するための画面構成や彩色について、いろいろと試みることの効果に関心を示す子どもが多い。(②) しかし、日頃の読書紹介カードづくりでは、物語中の挿絵の模写に終わることがほとんどで、自ら想像した世界を描く子どもはあまりいない。実際には、思いをふくらますことができずにいる子どもや具体的にどのように画面構成や彩色を工夫すればよいか戸惑ってしまう子ども、技能面の苦手意識から伸び伸びと表現できない子どもなど、絵を描く時に悩みをかかえる子どももいる。(③) さらに、彩色の際に、混色の仕方や筆づかいに気を付けてはいても、主題を表すための効果について見通しながら彩色する経験は、全般的に不十分だと言える。

本題材の想像による絵に関する構想力を見たところ、A児のように、登場人物の動きを工夫し周りに人物を配置するなどして、場面の様子を効果的に表そうとする子どもや、B児のように場面の空間を大きくとらえて表現できる子どももいる。しかし、C児のように登場人物を上手く描き進められない子どもや、描く場面を決めても構想が決まらず、なかなか下絵が進まない子どももいる。(④)

これらのことから、子どもたちが、心に残る場面や主題を焦点化したり、具体的に何をどのように配置すればよいか構想を練るなどの表現の試行の時間を十分に確保したり、資料を効果的に活用したりして、自分の思いに合った表現ができるようにする必要がある。

### (3) 本題材で高めたい「学び方」

思いをもつために 思いをふくらますために 思いをあらわすために 思いをあげようために	言葉を手がかりにする。(ア) 簡単な絵に表す。(イ) 造形的な要素をとらえる。(ウ) 友達と交流する。(エ) 材料や用具のもっている特性に気付く。(オ)
---	--

### (4) 指導に当たって

以上のような子どもの実態を踏まえ、本題材の目標を実現していくために次のような点に留意して指導していきたい。

「思いをもつ」過程では、物語「百羽のツル」を読み、物語全体の印象や感動した場面について話し合い、題材全体のめあてをもつことができるようにする。また、学習カードを用意し、最も印象に残った場面の様子を文章化して、自分の考えや表現の主題を整理したり、集約したりすることができるようにする。

「思いをふくらます」過程では、中心になる人物の気持ちや行動の様子、心情、周りの様子、目線などを文章化したり、簡単な絵で表すなどの試行を十分に繰り返したりして、自分の表現の主題に合う効果的な画面構成について考えることができるようにする。また、表現の主題に関連したツルや月に関する参考資料を準備し、自分の思いに合った納得のいく表現ができるようにする。

「思いをあらわす」過程では、これまでに描いた簡単な絵を基にしたり、組み合わせたりしながら自分の思いに合った画面を構成することができるようにする。また、場面の様子や人物の気持ちを強調するための画面構成や彩色について話し合い、効果的な表現の方法を考えることができるようにする。さらに、表現することに抵抗を感じている子どもへは、物語の語句や参考資料を取り上げたり、助言したりして、活動の見通しをもったり、表現意欲を高めたりすることができるようにする。また、過程の中間に互いの表現を鑑賞する場を設定し、自分や友達の表現のよさを出し合うことで新たな課題を見付け、より効果的な表現を追求できるようにする。

「思いをあげよう」過程では、ストーリーを想起しながら作品を見る鑑賞会を開き、互いの表現のよさを称賛し合うことで、表現活動の成就感を味わうことができるようにし、自分の表現に自信をもつことができるようにする。

### 3 題材の目標

内容のまとめ	観 点	目 標
A 表現	造形への関心・意欲・態度	感動した場面を想像したり、自分らしく表したりする楽しもうとする。
	発想や構想の能力	言葉を手がかりにしたり、造形的な要素をとらえたり、簡単な絵に表したりすることで、人物の気持ちや場面の様子を効果的に表すための線描や画面構成、彩色について工夫することができる。
	創造的な技能	表現したい場面の感じが表れるように線描や画面構成、彩色をすることができる。
B 鑑賞	造形への関心・意欲・態度	自分の表現を振り返ったり友達の表現のよさを見つけたりして、自分の表現に生かそうとする。
	鑑賞の能力	互いの作品や表現の仕方を振り返ることで、表現の意図や工夫をとらえることができる。

### 4 題材の指導計画（全7時間）

過程	時	主な学習活動	学び方	教師の指導と重点評価項目や評価方法
もつ ふくらます	2	1 物語を読み、感動した場面について話し合い、題材全体のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">心を動かされた場面を感動的な絵で表そう。</div>	ア エ	○ 物語「百羽のツル」を読み、物語全体の印象や感動した場面について話し合ったり、感じたことを交流したりすることで表現意欲が高まるようにする。 ◆ 物語の感動した場面について想像したことを、書いたり話したりして楽しもうとする。 【関・観察・発言・学習カード】
		2 表したい場面をどのように表すか考える。 3 簡単な絵を描くことで構想を練る。	ア イ ウ	○ 表したい場面について具体的に文章にすることで、表現の主題を明確にすることができるようにする。 ・ 登場人物の気持ちや行動の様子、周りの様子、目線 ○ ツルや月に関する参考資料を見たり、構想を練る視点について話し合ったりして、簡単な絵で表しながら、登場人物の気持ちや場面の様子を効果的に表すための線描や画面構成についてとらえることができるようにする。 ・ 遠近、動きの感じ、筆勢や濃淡 ◆ 表現の主題を明確にもち、表現の主題に沿った画面構成を練ることができるか。【発・発表・発言・学習カード】
あらわす あじわう	5 (本時3/5)	4 表したい場面の感じが出るように画面を構成して線描する。	イ	○ 参考資料等をもとに効果的な表現について話し合ったり、簡単な絵の中から自分の思いに合うものを選んだりして画面を構成しながら線描できるようにする。 ・ 部分と全体のバランス、登場人物の様子
		5 表したい場面の感じが出る彩色の仕方について話し合い、思いに合った彩色をする。 6 互いの表現を振り返り、新たな課題を基に表現を進める。	ア イ ウ オ エ	○ 登場人物の心情や場面の様子を表すための彩色の仕方について話し合い、見通しをもって製作を進めることができるようにする。 ・ 筆づかい（水加減、筆勢、にじみ、ぼかし） ・ 色づかい（混色や重色、同色系や補色の効果） ○ 過程の中間に鑑賞の時間を取り入れ、表現を振り返ったり、修正したりすることができるようにする。 ◆ 線描や画面構成、彩色を工夫して表現の主題を効果的に表すことができるか。【発・技・発言・観察・作品】
		7 作品鑑賞会を開く。	エ	○ 作品を見る視点について話し合い、それぞれの作品の表現のよさを確かめ合うことができるようにする。 ○ 出来上がった作品を掲示し、ストーリーを想起しながら作品のよさを味わうことができるようにする。 ◆ 作品について積極的に鑑賞し、表現のよさを味わおうとしているか。【鑑・関・発表・観察・学習カード】

5 本 時 (5 / 7)

標

(1) 自分の表したい場面の感じが出るように、筆づかいや色づかいなどの彩色の仕方を工夫することができる。

(2) 本時で高めたい学び方  
思いをあらわすために、材料や用具のもっている特性に気付いたり、簡単な絵に表したりする。

(3) 展 開

学習のめあて

予想される子どもの反応

過程	導 入 (10)	展 開 (28)	終 末 (7)
<p>1 本時のめあてについて確かめる。</p> <p>自分の表したい場面の感じが出るように、彩色の仕方を工夫しよう。</p> <p>2 筆づかいや色づかいについて話し合い、自分の表し方について考える。</p> <p>どんな筆づかいや色づかいが感じを強めるんだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料や学習カードを基に場面の様子や登場人物の気持ちと彩色の関係をつかむことができるようにする。</li> <li>筆づかい (水加減、筆勢、にじみ、ぼかし)</li> <li>色づかい (単色、同系色、重色、補色の効果)</li> </ul> <p>「ひわひわ」飛んでる感じが出るように、色をぼかしながら羽毛を描こう。</p> <p>3 自分の表したい場面の感じを出すための彩色の工夫について話し合う。</p> <p>力強い感じを出すために、絵の具をたっぷり使えばいいかな。</p> <p>急降下する感じが出るように、筆の勢いを速くして描いてみようかな。</p> <p>子ツルを救った親ツルたちの喜んでいる感じが出るように背景の色を混ぜてみようかな。</p> <p>4 自分の表したい場面の感じができるように彩色する。</p> <p>水加減を調節したら、親ツルの気持ちも強くなるといいよ。</p> <p>筆の勢いを速めて描いたら、ツルのスピード感や場面の緊張感が出そう。</p> <p>ツルの感じがでてきたぞ。</p> <p>筆の動きを大きくしたら、大空の感じがよく表せそう。</p> <p>重色してみたら、夜の空の感じが神秘的になったよ。</p> <p>5 学習の成果を振り返り、次時への意欲を高める。</p> <p>水加減で表し方が変わったよ。</p> <p>迫力がでてきた。次回は、もっと細かく仕上げよう。</p> <p>混ぜて温かい感じが出たよ。</p> <p>いろいろな描き方を試しの紙で試してみたら、失敗しなくて済んだよ。</p> <p>〇〇さんは、子ツルと親ツルたちを描く色づかいや筆づかいを変えていたよ。</p> <p>〇〇さんの絵は、にじみやぼかしの技法を生かして、夜空の神秘的な感じが親ツルたちの優しい感じを引き出すことができたね。みんなも次の時間にそんな効果も取り入れてみよう。</p> <p>互いの感想を発表し合い、造形的な要素のとりええ方や表現のよさを確かめ合い、次に生かせるようにする。</p> <p>〇〇くんの絵は、にじみやぼかしの技法を生かして、夜空の神秘的な感じが親ツルたちの優しい感じを引き出すことができたね。みんなも次の時間にそんな効果も取り入れてみよう。</p>	<p>高さ、速さ、広がり、緊張感、強さ、愛情、団結、美しさなどの一人一人の表現の技法を参考にしたり、実際に試したりしながら考えるようにする。</p> <p>称賛や助言を与える。</p> <p>試行のための画用紙を配付し、色づかいや筆づかいを試しながら彩色できるようにする。</p> <p>月夜の空の感じがでてきたぞ。</p> <p>高さ、速さ、広がり、緊張感、強さ、愛情、団結、美しさなどの一人一人の表現の技法を参考にしたり、実際に試したりしながら考えるようにする。</p> <p>称賛や助言を与える。</p> <p>試行のための画用紙を配付し、色づかいや筆づかいを試しながら彩色できるようにする。</p> <p>月夜の空の感じがでてきたぞ。</p>	<p>高さ、速さ、広がり、緊張感、強さ、愛情、団結、美しさなどの一人一人の表現の技法を参考にしたり、実際に試したりしながら考えるようにする。</p> <p>称賛や助言を与える。</p> <p>試行のための画用紙を配付し、色づかいや筆づかいを試しながら彩色できるようにする。</p> <p>月夜の空の感じがでてきたぞ。</p> <p>高さ、速さ、広がり、緊張感、強さ、愛情、団結、美しさなどの一人一人の表現の技法を参考にしたり、実際に試したりしながら考えるようにする。</p> <p>称賛や助言を与える。</p> <p>試行のための画用紙を配付し、色づかいや筆づかいを試しながら彩色できるようにする。</p> <p>月夜の空の感じがでてきたぞ。</p>	<p>高さ、速さ、広がり、緊張感、強さ、愛情、団結、美しさなどの一人一人の表現の技法を参考にしたり、実際に試したりしながら考えるようにする。</p> <p>称賛や助言を与える。</p> <p>試行のための画用紙を配付し、色づかいや筆づかいを試しながら彩色できるようにする。</p> <p>月夜の空の感じがでてきたぞ。</p> <p>高さ、速さ、広がり、緊張感、強さ、愛情、団結、美しさなどの一人一人の表現の技法を参考にしたり、実際に試したりしながら考えるようにする。</p> <p>称賛や助言を与える。</p> <p>試行のための画用紙を配付し、色づかいや筆づかいを試しながら彩色できるようにする。</p> <p>月夜の空の感じがでてきたぞ。</p>

重点評価項目	重点評価項目を授けの面に応じた指導
<p>◆ 彩色のめあてが決まらない子ども → 物語の語句に着目したり、登場人物の気持ちや表現のよさを確かめたりして、場面の様子をはっきりとつかむことができるようにする。</p> <p>◆ 彩色の工夫を思いつかない子ども → 具体的な彩色の技法を参考にしたり、実際に試したりしながら考えるようにする。また、必要に応じて参考資料を提示する。</p> <p>◆ 彩色の工夫を思いついた子ども → 全体の画面構成について語り合い、彩色の見通しをはっきり確かめることができるようにしたり、一斉の中で称賛したりして、意欲を更に高めることができるようにする。</p>	<p>◆ 彩色のめあてが決まらない子ども → 物語の語句に着目したり、登場人物の気持ちや表現のよさを確かめたりして、場面の様子をはっきりとつかむことができるようにする。</p> <p>◆ 彩色の工夫を思いつかない子ども → 具体的な彩色の技法を参考にしたり、実際に試したりしながら考えるようにする。また、必要に応じて参考資料を提示する。</p> <p>◆ 彩色の工夫を思いついた子ども → 全体の画面構成について語り合い、彩色の見通しをはっきり確かめることができるようにしたり、一斉の中で称賛したりして、意欲を更に高めることができるようにする。</p>

自分の表したい場面の感じが出るように、彩色の工夫を考えよう。

【発：発言、観察、学習カード、作品】